



「Windows 10」のパフォーマンスを無料で向上させる6つの裏技

ちょっとした設定変更で「Windows 10」を高速化したり、パソコンのバッテリーの持ちを良くしたりできる可能性がある。今回は Windows 10 の利便性を向上させる 6 つの方法を紹介する。

「Windows 10」を無料で高速化する4つの方法

「Windows 10」の高速化を図るために、IT 担当者が取り得る手段は幾つかある。調整は、設定を変更したり、ハードウェアやメモリを追加したりすることで簡単に実現できる。

物理メモリ容量を最大限に増設すれば、Windows 10 のパフォーマンスは劇的に向上する。32bit 版の Windows 10 は 4GB までのメモリを利用でき、64bit 版は自分がインストールしている Windows 10 のバージョンやデバイスのマザーボード次第で、128GB 以上のメモリを利用できる。

メモリは安価なので、日常的に使うデバイスの場合、32bit 版では最大の 4GB、64bit 版では最低でも 16GB のメモリの導入を検討してほしい。デバイスやマザーボードの仕様をチェックして、自分のデバイスが搭載できる最速のメモリを購入することもできる。

本稿では OS の設定方法を中心に、Windows 10 のパフォーマンスを高める手段を説明する。以下の項目について、詳しく解説していこう。

- ページファイルの最小化
- UI の視覚効果を無効化
- 不要なサービスの一掃
- スタートアッププログラムの管理

本稿で紹介する手法の一部は、Windows の起動に関連する設定の変更を含みます。設定内容によっては Windows が正常に起動しなくなる可能性があります。実行を許可されたスタッフが、あくまでも自己責任において実行してください。

【手段1. ページファイルの最小化

Windows のページファイル（仮想メモリ）は、物理メモリが容量の限界に近付いた場合に、一部のデータをディスクに書き込むことによって、システムが物理メモリを効率的に使用できるようにする。

メモリ 8GB 以上の Windows 10 デバイスでは、OS がページファイルのサイズをうまく管理している。16GB や 32GB といった大容量メモリを搭載するデバイスの場合、ページファイルのサイズを小さくしても、目に見えるほどの問題は発生しない。

ページファイルのサイズは Windows 10 のパフォーマンスに影響を与えるので、適切に調整することでパフォーマンスを向上できる可能性がある。ただし 32bit システムでは、ページファイルのサイズ変更は避けた方がいい。

実際にページファイルのサイズを最小化する手順は、以下の通りだ。

1. 「コントロールパネル」画面を開いて「システムとプロパティ」→「システム」を選択し、「設定の変更」を選択する
2. 「システムのプロパティ」画面の「詳細設定」タブにある、「パフォーマンス」欄の「設定」をクリックする
3. 「パフォーマンスオプション」画面の「詳細設定」タブにある、「仮想メモリ」欄の「変更」をクリックする
4. 「仮想メモリ」画面の一番下に表示される「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」で、「最小限」「推奨」「現在の割り当て」のサイズをメモし、「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外す。使用可能なドライブのリストに複数

のドライブが表示された場合は、Windows 10 をインストールしたシステムドライブをクリックする。通常は「C」がこれに該当する

5. 「カスタムサイズ」のラジオボタンをオンにして、「初期サイズ」と「最大サイズ」に値を入力する。最大サイズは自分がインストールしたメモリ容量に応じて 1GB または 4GB にする
6. 「設定」をクリックし、「OK」をクリックする

設定を済ませたら、一連の作業で開いた画面を全て閉じ、OS を再起動する。

複数の物理ドライブを使っている場合、物理ドライブ間でページファイルを分割することで、システムを高速化できる（1つのドライブに複数のパーティションを設定している場合は含まない）。約 300MB のページファイルをシステムドライブに割り当て、前述の仮想メモリ画面で 2 つ目のドライブを選択して、初期サイズと最大サイズの値を入力し、設定ボタンをクリックする。

Ⅰ 手段2. UIの視覚効果を無効化

画面のアニメーションや影といった要素は、ユーザーインターフェース（UI）の見栄えを良くする半面、相当の CPU やメモリを消費する。こうした機能を無効にするには、前述したシステムのプロパティ画面を開く。詳細設定タブで、パフォーマンス欄の設定ボタンをクリックする。「視覚効果」のタブで、図で赤く囲んだ部分の全項目のチェックを外す。

<input type="checkbox"/>	Windows 内のアニメーション コントロールと要素
<input type="checkbox"/>	アイコンの代わりに縮小版を表示する
<input type="checkbox"/>	ウィンドウの下に影を表示する
<input type="checkbox"/>	ウィンドウを最大化や最小化するときアニメーションで表示する
<input type="checkbox"/>	コンボ ボックスをスライドして開く
<input type="checkbox"/>	スクリーン フォントの縁を滑らかにする
<input type="checkbox"/>	タスク バーでアニメーションを表示する
<input checked="" type="checkbox"/>	タスク バーの縮小版のプレビューを保存する
<input type="checkbox"/>	デスクトップのアイコン名に影を付ける
<input type="checkbox"/>	ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する
<input type="checkbox"/>	ヒントをフェードまたはスライドで表示する
<input checked="" type="checkbox"/>	プレビューを有効にする
<input type="checkbox"/>	マウス ポインターの下に影を表示する
<input type="checkbox"/>	メニューをフェードまたはスライドして表示する
<input type="checkbox"/>	メニュー項目をクリック後にフェードアウトする
<input type="checkbox"/>	リスト ボックスを滑らかにスクロールする
<input type="checkbox"/>	半透明の [選択] ツールを表示する

図 視覚効果の設定例

■ 手段3. 不要なサービスの一掃

不要なサービスを無効にすれば、Windows 10の高速化につながる。ただし「バージョン1607」（別名「Windows 10 Anniversary Update」）以降のWindows 10は、サービス調整による恩恵は、全くとはいわないまでも、それほど大きくはない。それでもパワー不足のデバイスでは、一部のサービスを無効にすることによって、それなりにパフォーマンスは向上する。

サービスを無効にする手順はこうだ。

まずスタートメニューを右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択するか、「Windows」キーと「R」キーを同時に押して、「ファイル名を指定して実行」のダイアログボックスを表示させる。次に「名前」欄に「services.msc」と入力して「OK」を押し、「サービス」画面を起動させる。

画面内のサービス一覧から、無効にしたいサービスを選択して右クリックし、「プロパティ」を選択する。表示されたプロパティ画面の「全般」タブにある「停止」をクリックし、次に「スタートアップの種類」のドロップダウンメニューから「無効」を選択して「OK」を押す。

サービスは必ず1個ずつ無効にして、そのたびにOSを再起動する。次のサービスを無効にする前に、しばらくの間使用した方がよい。そうすれば、どこかがおかしくなったとしても、その問題を修正するために再び有効にすべきサービスが分かりやすくなる。

■ 手段4. スタートアッププログラムの管理

Windows 10の起動時に自動的に起動するプログラム（スタートアッププログラム）を減らせば、電源が切れた状態から起動したり、再起動したりした際に、デスクトップに到達できるまでの時間が短くなる。スタートアッププログラムを管理するには、「タスクマネージャー」を開いて「スタートアップ」のタブをクリックし、自動的に起動させたくないプログラムを選んで、右クリックメニューの「無効化」をクリックする。

Windows 10のタスクマネージャーは、プログラム名をインターネットで検索できる機能を備える。これを使えば、どのプロセスを有効のままにしておき、どれを無効にすべきかを決めやすくなる。インターネット検索機能を使うには、タスクマネージャーで何らかのプログラム（プロセス）を右クリックして「オンライン検索」を選択すると、デフォルトのWebブラウザで、そのプログラムの検索結果一覧が表示される。

スタートアッププログラムの管理に本気で取り組みたいなら、タスクマネージャーの代わりに、トラブルシューティングツール群「Windows Sysinternals」に含まれる「Autoruns for Windows」を利用する。

OSの主要プロセスの起動後に、スタートアッププログラムが起動する。各プログラムの起動時間の遅れを最小限に抑えることで、起動時間をさらに短縮できる。そのためには「レジストリエディター」を使う必要がある。具体的な手順は次の通りだ。

1. タスクバーの検索ボックスに「regedit.exe」と入力して、レジストリエディターを開く
2. 「HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Serialize」というレジストリキーまでたどり着く。もし「Serialize」キーが存在しなければ、画面左側のキーツリーで「Explorer」キーをクリックし、メニューバーから「編集」→「新規」→「キー」を選択し、「Serialize」と入力してそのキーに名称を付け、キーボードの「Enter」キーを押す
3. 画面左側のキーツリーでSerializeキーを右クリックし、メニューバーから「編集」→「新規」→「DWORD（32ビット）値」を選択。名称は「StartupDelayInMSec」に設定する。値はデフォルトで0に設定されている
4. レジストリエディターを終了する

次に再起動した時は、起動が速くなっているはずだ。

以上の全てのWindows 10パフォーマンス調整を実行して起動時間を短縮し、メモリを増設すれば、OSは目に見えて高速化するだろう。推奨した方法を幾つか実行するだけでも反応が良くなり、コンピュータを快適に使用できるようになる。

無料で簡単、「Windows 10」の バッテリー持ちが良くなる“たった2つの設定”

「Windows 10」の一部の機能は、ノートPCのバッテリーを激しく消費する。だがバッテリーを長持ちさせるための簡単な方法が幾つかある。

Windows 10のバッテリー消費を抑える工夫

まずは最新のアップデートをダウンロードしているかどうかを確認しよう。Microsoft は Windows 10 のプレビュー版「Insider Preview」のバージョン「Build 14332」で、バッテリー消費の問題を幾つか解消した。必要不可欠ではないバックグラウンド処理の優先順位を下げることによって、タブレット「Surface」や「モダンスタンバイ」機能を使用する PC のバッテリーの持ちを改善した。モダンスタンバイは省電力状態でもインターネット接続を維持する機能だ。

音声アシスタント「Cortana」も Windows 10 のバッテリーを食う原因の 1 つとされている。いつ「コルタナさん」と呼びかけられてもいいように、常に待機していることが原因だ。便利ではあるがバッテリーをひどく消耗する Cortana は、幸い簡単にオフにできる。Cortana を開いて「ノートブック」を選び、「設定」をクリックする。表示される設定画面の「コルタナさん」項目のスライダーを使えば、話しかけに応答する機能のオン/オフを切り替えることができる。

アプリケーションのバックグラウンド動作もバッテリーの持ちを左右する。Windows 10 では情報を常に最新に保てるよう、アプリケーションがバックグラウンドで、インターネットからデータをダウンロードできるようになっている。例えば天気のアプリケーションであれば、一定の間隔で 1 日中、最新の気象情報を自動的にダウンロードするといった具合だ。

こうしたバックグラウンド動作は、有用な情報を提供するのに役立つ一方で、バッテリーの消耗を加速する。もちろんアプリケーション単位で無効にすることが可能だ。スタートメニューから「設定」を選んで「システム」をクリックすると、「バッテリー節約機能」が表示される。「バッテリー節約機能の設定」をクリックした先の画面で、アプリケーションのバックグラウンド動作を管理できる。バックグラウンド動作中にデータ受信やプッシュ通知の送信、最新情報への更新などを実行できるようにするかどうかを、アプリケーションごとに設定可能だ。

TechTarget ジャパン プレミアム

「Windows 10」のパフォーマンスを無料で向上させる 6 つの裏技

2018 年 11 月 8 日

編集：TechTarget ジャパン

発行：アイティメディア株式会社

Copyright 2018 ITmedia, Inc. TechTarget, Inc. All Rights Reserved.